

平成29年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かすために

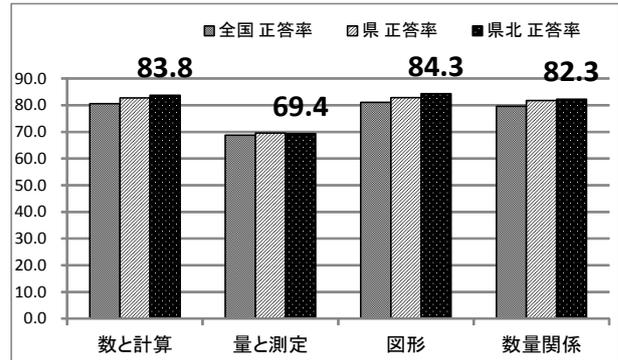
算数（小学校）
〔小学校算数A〕

県北教育事務所

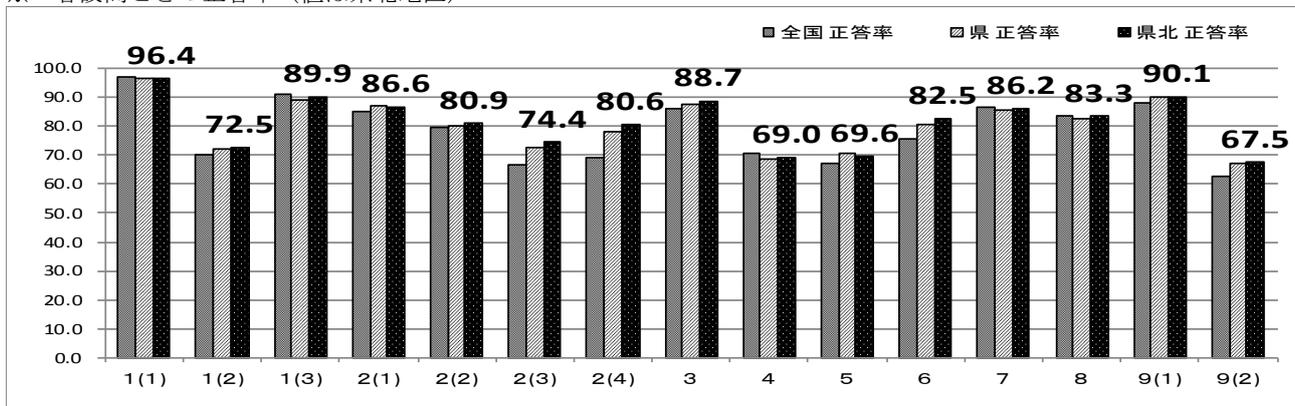
※ 領域別の正答率（値は県北地区）

正答率	H29	全国比	H28	全国比
県北	81.2	+2.6	77.1	-0.5
県	80.5	+1.9	77.2	-0.4
全国	78.6		77.6	

全国平均を上回っており、昨年度の全国比から3.1ポイントの向上が見られた。領域別ではどの領域も全国平均を上回っているが、量と測定の領域では県平均を0.2ポイント下回った。



※ 各設問ごとの正答率（値は県北地区）



【結果】（課題として挙げた問題は、正答率の低い問題や過去に課題とされていた問題である。）

- 乗法と加法の混合算やわり算の商を分数で表すことなど四則計算の技能が身に付いてきている。[2](3)(4)
- 2つの観点で資料を整理する二次元表の読み取りや活用する力が身に付いてきている。[9](1)
- 任意単位における測定の方法について、比較の方法の理解に課題がある。[4]
- 高さの等しい平行四辺形と三角形の底辺と面積との関係の理解が十分とは言えない。[5]
- 資料から二次元表の合計欄に当てはまる数値を求めることに課題がある。[9](2)

平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※ ()は報告書ページ

設問[4] 任意単位量における比較の方法の理解を問う問題である。誤答については直接比較と間接比較の違いを理解できていないものが多い。(P43)

[4]	1(正答)	2	3	4	5	6
県北	69.0	6.0	7.5	4.0	6.6	6.3
県	68.8	5.6	7.8	4.0	6.6	6.7
全国	70.8	5.4	7.1	3.5	5.6	6.7

設問[5] 解答類型2を選ぶ児童は底辺と高さの等しい平行四辺形と三角形の面積が1/2の関係にあることの理解が十分でなく三角形の高さが図形の内部に現れるという理解にとどまっている。(P45)

[5]	1(正答)	2	3	4	7	8	9
県北	69.6	7.2	2.5	2.0	2.3	3.8	10.9
県	70.4	6.7	2.3	2.9	1.9	4.0	10.4
全国	67.2	9.3	2.7	2.9	2.0	3.8	10.2

設問[9](2)では、二次元表の合計欄に人数の総計13ではなく、犬を飼っている人数とネコを飼っている人数をそれぞれ足して26と答えてしまう誤答(類型2)が県北域内で11.2%あり、求めた数値の意味を十分に理解できていない。(P55)

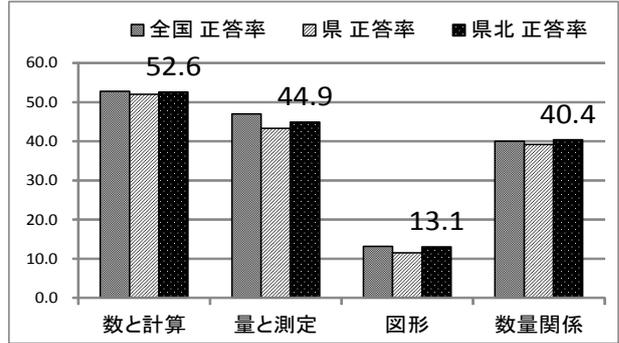
[9](2)	1(正答)	2	3	4	5	6	9
県北	67.5	11.2	0.1	0.3	3.2	1.0	14.2
県	67.3	11.8	0.1	0.2	3.2	1.0	14.0
全国	63.1	12.3	0.0	0.2	4.4	0.8	14.0

[小学校算数 B]

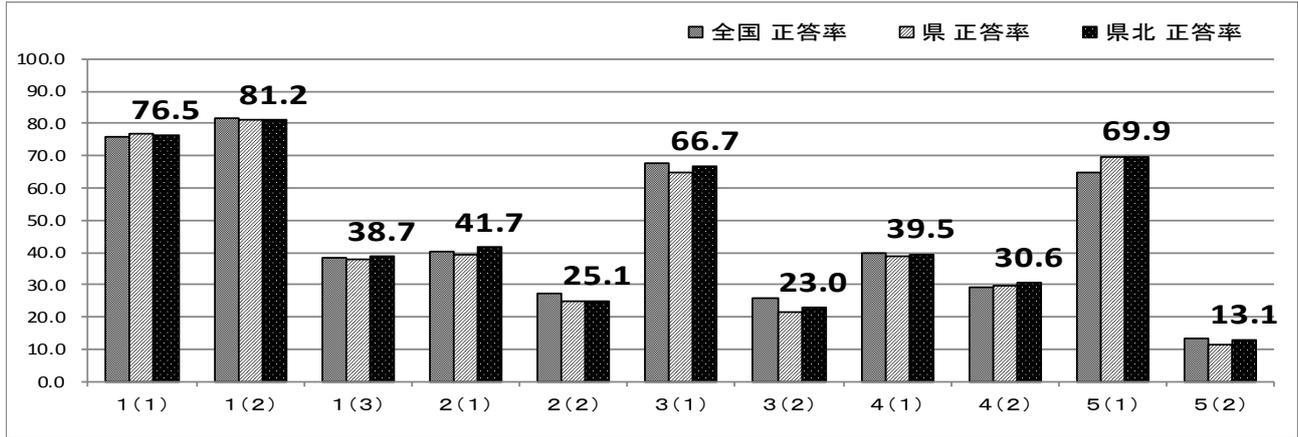
正答率	H29	全国比	H28	全国比
県北	46.0	+0.1	46.8	-0.4
県	45.1	-0.8	46.2	-1.0
全国	45.9		47.2	

県北域内は全国平均を上回っており、昨年度の全国比から 0.5 ポイントの向上が見られた。領域別で量と測定の領域では全国平均を 2.1 ポイント下回ったが、他の領域は全国平均と同程度である。

※ 領域別の正答率（値は県北地区）



※ 各設問ごとの正答率（値は県北地区）



【結果】(課題として挙げた問題は、正答率の低い問題や過去に課題とされていた問題である。)

- 問題場面をとらえ、見つけ出したきまりをほかの場合に適用することができる。1
- 問題にある考えを読み取り、数量の関係を図で表すことができる。[1](2)
- 2つの数量の関係を一般化して、指定された条件にある説明を作ることに課題がある。[1](3)
- 郵便料金の差を求める方法と答えを言葉や式を用いて説明することに課題がある。[2](1)
- 7mを仮の平均としたときの平均の求め方を理解し、基準を7m20cmに変えたときの求め方を説明することに課題がある。[3](2)
- 目的に応じて二次元表にまとめるとき、求めた数値の意味を捉えることに課題がある。[4](1)

平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※()は報告書ページ

設問[2](1)で類型4の児童が10%いるが、小さい封筒を利用したときの料金と大きい封筒を利用したときの料金の一方だけを求めて結論を述べていたり、両方の料金を比較し差を比べる言葉が足りなかったりする誤答である。(P70)

[2](1)	1(正答)	2	3	4	5	6	7	8	9	無解答
県北	41.7	1.1	1.4	10.0	3.7	6.9	21.2	0.5	8.9	4.6
県	39.5	1.2	1.2	10.0	4.3	6.9	22.4	0.4	9.8	4.3
全国	40.7	0.8	1.6	10.8	4.8	6.2	19.4	0.4	9.0	6.4

設問[3](2)では、類型7が県北域内では24.9%であった。仮の平均を求めるときに基準とする数値を変えたときに、基準を変えたことにより、変えなければならぬ事柄に注意がいかず、7mを基準にした求め方をそのまま記述している誤答である。(P77)

[3](2)	1(正答)	2(正答)	3	4	5	6	7	8	9	無解答
県北	22.4	0.6	8.0	1.9	1.2	1.9	24.9	9.4	19.2	10.5
県	21.0	0.7	8.4	1.4	1.2	2.1	24.0	10.7	20.3	10.2
全国	25.4	0.9	10.0	1.5	0.9	2.5	17.7	8.5	20.0	12.7

設問[4](1)における類型3,4で計18.8%になる。与えられた数が二次元表のどの欄に当てはまるかを正答していながら、理由の説明において、正答の条件「①ハンカチをもってきた人数」、「②ティッシュをもってこなかった人数」の①、②の片方のみ答えている誤答である。(P84)

[4](1)	1(正答)	2	3	4	5	6	7	9	無解答
県北	39.5	2.9	7.5	11.3	7.4	6.3	5.7	15.5	3.8
県	38.8	3.2	7.6	11.5	7.2	6.1	5.9	16.7	3.1
全国	40.2	2.3	7.6	9.4	7.4	5.4	6.1	17.1	4.7

※ 設問[2](1)、設問[4](1)から分かることは、事柄の理由の説明を記述することに課題があると言える。題意を正しく理解できているが、正答の条件には解答が不足している児童が多い。